

科目名	作業療法概論					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	501教室	
授業概要	作業療法士を目指して入学したわけだが、作業療法がどのような専門性を有しているか不明確な者も多いと考えている。本科目を受講することにより、「作業療法とは何か、どのような専門性を有しているか」という問いに答えられるようになることを求める。									
一般目標	作業療法とは何かを平易な言葉で説明する知識を身につける。									
テキスト 参考書等	作業療法学ゴールドマスター・テキスト 作業療法学概論 改訂第2版(メジカルビュー社) 参考書:作業療法の世界 第2版(三輪書店)									

到達目標		
知識(認知領域) ・作業療法の流れを説明できる。・作業療法の定義を覚え、その意味を説明できる。・作業療法の歴史を知り、作業療法の起源を説明できる。・領域別作業療法について、資料をまとめ、他者に分かりやすく説明することができる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) ・授業に参加できる。 ・居眠り、私語なく授業に取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション	作業療法を学ぶ心構えを理解し説明することが出来る。それぞれの学生が作業療法をどのように捉えているかを自己紹介を交えながら共有する事が出来る。
2	オリエンテーション	作業療法を学ぶ心構えを理解し説明することが出来る。それぞれの学生が作業療法をどのように捉えているかを自己紹介を交えながら共有する事が出来る。
3	作業療法とは？ 作業療法の定義	左記内容について必要なキーワードを挙げ、説明することができる。
4	作業療法の歴史(世界・日本の動向)	左記内容について必要なキーワードを挙げ、説明することができる。
5	作業療法のプロセス	左記内容について必要なキーワードを挙げ、説明することができる。
6	身体障害・精神障害・発達障害・高齢期・地域作業療法の調査	各領域における作業療法の概要を調査し、それを説明することができる。
7	身体障害・精神障害・発達障害・高齢期・地域作業療法の調査	各領域における作業療法の概要を調査し、それを説明することができる。
8	身体障害・精神障害・発達障害・高齢期・地域作業療法の調査	各領域における作業療法の概要を調査し、それを説明することができる。
9	身体障害・精神障害・発達障害・高齢期・地域作業療法の発表	各領域における作業療法の概要を調査し、それを説明することができる。
10	作業療法周辺の学問、他職種、職業倫理、診療報酬	作業療法に関連する学問の概要を説明できる。 作業療法士養成課程について概要を説明できる。 医療従事者として、作業療法士としての職業倫理を説明できる。
11	学科教員による作業療法経験の紹介	作業療法学科教員の臨床経験、作業療法士観、職業観に触れ、自らが感じた事をまとめ説明する事が出来る。
12	学科教員による作業療法経験の紹介	作業療法学科教員の臨床経験、作業療法士観、職業観に触れ、自らが感じた事をまとめ説明する事が出来る。
13	学科教員による作業療法経験の紹介	作業療法学科教員の臨床経験、作業療法士観、職業観に触れ、自らが感じた事をまとめ説明する事が出来る。
14	学科教員による作業療法経験の紹介	作業療法学科教員の臨床経験、作業療法士観、職業観に触れ、自らが感じた事をまとめ説明する事が出来る。
15	理学療法概論	理学療法の概要を説明できる。

成績評価方法						
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準	
定期試験	○			100	秀(4):90点以上	
小テスト				評価なし	優(3):80～89点	
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点	
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点	
発表・作品			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得	
演習				評価なし	()内はGPA点数	
出席			○	欠格条件		
担当教員	石丸 拓也		実務経験紹介	医療機関・教育機関で15年以上の作業療法経験あり。		

科目名	作業学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT1年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	501教室	
授業概要	作業療法の「作業」とは何かを考えたことがあるだろうか。それは多種多様な視点から定義づけられている。講義後には自分なりの作業の定義を言えるようになることを求める。 作業療法には3つの大理論があり、それは作業療法士の視点を明確にするものである。多職種にはない作業療法士の特異性を理解することを求める。									
一般目標	作業療法の基礎学問である作業科学を学ぶことで「作業」に含まれる特性を理解する。 作業療法理論を知り、作業療法士として対象者に介入する際の視点を理解する。									
テキスト 参考書等	参考書:標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版 医学書院 「作業」って何だろう 作業科学入門 第2版 医歯薬出版									

到達目標		
知識(認知領域) ① 自身の生活がどのような作業で構成されているかを列挙する。 ② ①で挙げた作業にどのような形態・機能・意味があるかを列挙する。 ③ 作業的公正、不公正の概念を説明する。 ④ 作業の視点で自身や他者を理解することができる。 ⑤ 作業を治療として用いる際に必要な作業分析の仕方を理解する。 ⑥ 作業療法の代表的な3理論の構成要素を説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	作業の定義、分類、効果、作業的存在(前期)	作業の定義、分類、効果、作業的存在の概念を説明できる。 作業の視点で「ひと」や「社会」を見ることができる。
2	作業の定義、分類、効果、作業的存在(前期)	作業の定義、分類、効果、作業的存在の概念を説明できる。 作業の視点で「ひと」や「社会」を見ることができる。
3	人-作業-環境モデル(PEOモデル)(前期)	人-作業-環境モデル(PEOモデル)を学び、その概念を説明できる。
4	作業と結びつきのカナダモデル(CMOP-E, クライアント中心の作業療法)(前期)	作業と結びつきのカナダモデル(CMOP-E, クライアント中心の作業療法)を学び、その概念を説明できる。
5	人間作業モデル(MOHO)(前期)	人間作業モデル(MOHO)を学び、その概念を説明できる。 意志、習慣、環境の概念と関係性を説明できる。
6	作業療法介入プロセスモデル(OTIPM)(前期)	作業療法介入プロセスモデル(OTIPM)を学び、その概要を説明できる。
7	作業を基盤とした実践・前期のまとめ	作業を基盤とした実践とは何かを説明できる。
8	作業分析(後期)	作業の階層を説明できる。作業分析とは何かを説明できる。包括的・限定的作業分析。 工程、動作、運動分析ができるようになる。
9	作業バランス(後期)	作業バランス自己診断を用い、自身の生活を構成する作業を列挙できる。
10	作業バランス(後期)	作業バランス自己診断を用い、自身の生活を構成する作業を列挙できる。
11	作業的公正・不公正(後期)	自身が現在担っている役割を列挙する。 作業的公正・不公正の概念を知り、自身の例を考えて列挙できる。
12	作業の形態・機能・意味(後期)	作業の形態・機能・意味の概念を理解し、説明できる。
13	作業の形態・機能・意味(後期)	作業の形態・機能・意味の概念を理解し、説明できる。
14	作業の視点で自身や他者を知る(後期)	作業の視点で自身や他者を知ることができる。 ワークショップ「作業的存在である自身に気付く」
15	講義のまとめ	前後期を通じて本科目で習得した概念を説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介		実務経験紹介	日本作業科学研究会 前理事、現在実践研修班と研究法研修班に在籍(8年)	

科目名	作業学実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	木工金属陶工室	
授業概要	作業療法は治療手段として様々な「作業」を用いる。その作業をすることがどのような治療的効果があるのかを体験的に理解することを目的とするが、根本的に、「作業」に取り組むことの楽しさや難しさを感じてもらいたい。									
一般目標	「作業」を実際に経験することで、楽しさ・難しさを体感し、各作業にどのような特性があるのか分析できるようになる。									
テキスト 参考書等	※適宜資料配布 参考書:標準作業療法学 専門分野「基礎作業学 第3版」(医学書院)、ゴールドマスタートキスト作業療法学 作業学 第2版(MEDICAL VIEW)									

到達目標		
知識(認知領域) ・各作業がどのような工程で行われるかを列挙することができる ・各作業で使われる材料や道具を扱うための機能を列挙することができる ・各工程でどのような治療的意義があるかを列挙することができる		
技術(精神運動領域) ・各作業を行うために必要な道具・材料を適切に扱うことができる ・校内展示に耐えうる、また実用的に使用できる作品を完成することができる ・集団作業に必要なコミュニケーション能力を身につけることができる		
態度(情意領域) ・授業に参加できる ・作業に集中することができる ・必要に応じ、他者(教員含む)と連携することができる		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション・作業学総論(東野)	講義概要を理解できる。 包括的作業分析の概要を理解できる。
2	作業学総論(東野)	包括的作業分析の概要を理解できる。
3	作業学実習① 革細工(河本)	革細工演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。 革の特性を理解し、イメージした形に形成するすることができる。
4	作業学実習② 革細工(河本)	革細工演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。 革の特性を理解し、イメージした形に形成するすることができる。 革細工の包括的作業分析を記録用紙に従って行うことができる。
5	作業学実習③ ちぎり絵(渡辺)	ちぎり絵演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。 イメージしたデザインに仕上げることができる。
6	作業学実習④ ちぎり絵(渡辺)	ちぎり絵演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。 イメージしたデザインに仕上げることができる。
7	作業学実習⑤ 折り紙等、身近な道具を活用した作業(上原)	身近な道具を活用した作業をする楽しさ、難しさを体感する。身近な物品で創造的作業が可能となることを理解できる。 イメージした作品に仕上げることができる。
8	作業学実習⑥ 折り紙等、身近な道具を活用した作業(上原)	身近な道具を活用した作業をする楽しさ、難しさを体感する。身近な物品で創造的作業が可能となることを理解できる。 イメージした作品に仕上げることができる。
9	作業学実習⑦ 木工 (設計)(濱本、石丸)	木工演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。 提供された材料で作ることのできる作品を考え、木取り図を書くことができる。
10	作業学実習⑧ 木工 (裁断)(組み立て)(濱本、石丸)	木取り図に従い、木材を裁断することができる。 裁断した木材を組み立てることができる。
11	作業学実習⑨ 木工 (組み立て、塗装)(濱本、石丸)	裁断した木材を組み立てることができる。 裁断した木材を組み立て、塗装を行い仕上げることができる。
12	作業学実習⑩ 木工 (包括的作業分析)(濱本、石丸)	木工作業における包括的作業分析レポートを完成できる。
13	作業学実習⑪ アロマテラピー(石丸)	アロマテラピーを経験し、香りによるリラクゼーションなどの自律神経系作用を体感する。道具や材料を適切に扱うことができる。
14	作業学実習⑫ ゲーム(将棋、囲碁、麻雀、オセロ等)(東野)	ゲーム(将棋等)による作業の楽しさを体感する。道具や材料を適切に扱うことができる。
15	作業学実習⑬ 書字(東野)	思いを文字に起こし、それを説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート	○			100	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品		○		評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫、石丸 拓也、他		実務経験紹介	作業療法士として20年以上一般病院、老健等で勤務し、多様な作業活動を患者に提供した。(東野)	

科目名	作業療法評価学総論					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	501教室	
授業概要	作業療法を実施する際、まずは患者の心身の状態を把握することから始まる。その状態に合わせた治療を実施するため、「評価」をできることは作業療法士として基礎となる。本科目では、評価の目的や意義、方法、手順といった、基礎知識の習得を目指す。									
一般目標	作業療法評価学を学ぶ上で基礎となる知識を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域) ・作業療法評価の目的と意義、評価過程と評価項目を説明できる。 ・記録・報告・効果判定について説明できる。 ・面接、観察、意識評価、バイタルサイン、各身体機能検査の目的について説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	講義オリエンテーション, 評価学の基礎(渡辺)	・作業療法評価の目的・意義を説明できる。
2	評価学の基礎(渡辺))	作業療法と評価:情報収集段階, 評価の目的, 手順, 手段, 留意点
3	評価学の基礎(渡辺)	作業療法と評価:評価のまとめと問題点, 利点の抽出, 目標設定, プログラム立案
4	再評価と作業療法の効果判定、記録・報告の意義と特徴(渡辺)	・評価実施上、対象者へ配慮すべきことを列挙することができる。 ・評価結果をデータで残すことの重要性を述べることができる。 ・問題点と利点の違いをICFと関連づけて説明できる。 ・OTの効果判定について、具体的方法について列記できる。 ・統合と解釈についてICFと関連づけて説明できる。・記録・報告の目的・意義を言える。
5	領域共通の評価法(面接法・観察法)(渡辺)	・面接の目的、得られる情報を説明できる。 ・観察の目的、得られる情報を説明できる。
6	領域共通の評価法(意識の評価・バイタルサイン・臨床検査値の読み方)(濱本)	意識、バイタルサイン(血圧・脈拍)の基礎知識を説明することができる。
7	領域共通の評価法(形態測定)(濱本)	形態測定に関する基礎知識を説明することができる。
8	領域共通の評価法(関節可動域測定)(石丸)	形態測定に関する基礎知識を説明することができる。
9	領域共通の評価法(筋力検査)(石丸)	筋力検査に関する基礎知識を説明することができる。
10	領域共通の評価法(感覚検査)(石丸)	感覚検査に関する基礎知識を説明することができる。
11	領域共通の評価法(反射検査)(上原)	反射検査に関する基礎知識を説明することができる。
12	領域共通の評価法(姿勢反射検査)(上原)	姿勢反射検査に関する基礎知識を説明することができる。
13	領域共通の評価法(筋緊張検査)(東野)	筋緊張検査に関する基礎知識を説明することができる。
14	領域共通の評価法(協調性検査)(東野)	協調性検査に関する基礎知識を説明することができる。
15	領域共通の評価法(脳神経検査)(東野)	脳神経検査に関する基礎知識を説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介、石丸 拓也、他		実務経験紹介	病院・施設での臨床勤務で多くの患者に評価を実施経験を有す	

科目名	生活機能学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	501教室	
授業概要	国際生活機能分類とリハビリテーションの関連を理解する。手段的日常生活動作(調理、裁縫、レク等)を通して、OTとして活動をどのように捉えるかの視点を学ぶ。									
一般目標	1.国際生活機能分類の各構成要素と相互関係を学び、生活機能の分類方法を修得する。 2.各構成要素の具体的内容を学び、その分類方法を修得する。 3.活動における最大能力(出来る活動)と実行状況(している活動)について理解し、その評価法を修得する。 4.目標指向型リハビリテーションについて学び、その思考過程を身につける。 5.活動を自ら体験・分析することにより、作業分析におけるOTの視点、思考過程を理解する。 6.レクリエーションを通して、ICFにおける参加(社会的活動)の意義を理解することが出来る。 7.認知症サポーターの資格取得を通して、認知症がある方に対する基本的な知識、対応方法を理解することが出来る。									
テキスト 参考書等	・介護保険サービスとリハビリテーション-ICFに立った自立支援の理念と技法- (中央法規) ・ICF 国際生活機能分類 -国際障害分類改訂版- (中央法規) ・ICFの理解と活用 (萌文社)									

到達目標		
知識(認知領域) ・ICFの構成要素とその関連性を理解し説明することが出来る。 ・作業分析におけるOTの視点、思考過程を理解し説明することが出来る。		
技術(精神運動領域) ・事例を通してICFシートをまとめる事が出来る。 ・調理活動をOTの視点、思考過程で観察することが出来る。		
態度(情意領域) ・授業に参加できる。 ・グループワークにおいて積極的に意見を述べ、役割を果たすことが出来る。		
回数	授業内容	授業目標
1	国際生活機能分類(ICF)とは	国際生活機能分類の概要を学び理解し説明出来る。 過去から現在までの、健康、疾病、障害、生活の捉え方の変遷を学び理解し説明出来る。
2	国際生活機能分類の構成要素と関係性について	ICFの構成要素とそれぞれの関係性について理解し説明出来る。
3	心身機能・身体構造および障害について	構成要素の一つである心身機能・身体構造および、これらの否定的側面(機能障害・構造障害)について理解し説明出来る。
4	活動・参加および活動制限・参加制約について	構成要素の一つである活動・参加および、これらの否定的側面(活動制限・参加成約)について理解し説明出来る。
5	背景因子(環境因子・個人因子)および促進・阻害因子について	生活機能の背景因子である環境因子・個人因子について理解し説明出来る。
6	出来る活動・している活動・する活動について	活動は実行能力(出来る活動)と遂行状況(している活動)に大別出来る。これらの違いを理解するとともに、主たる評価方法について理解し説明出来る。
7	国際生活機能分類とリハビリテーション	リハビリテーションにおけるICFの関係性、活用方法を理解し、説明出来る。
8	ICFまとめ(事例を通して)	事例を通して、ICFシートをまとめる事が出来る。
9	手段的日常生活活動の評価と分析	調理活動を通して、作業分析に必要な思考過程を理解する事が出来る。
10	手段的日常生活活動の評価と分析	裁縫活動を通して、作業分析に必要な思考過程を理解する事が出来る。
11	手段的日常生活活動の評価と分析	作業分析の結果をまとめレポート提出することが出来る。
12	レクリエーション体験	レクリエーションを通して、ICFにおける参加(社会的活動)の意義を理解することが出来る。
13	レクリエーション体験	レクリエーションを通して、ICFにおける参加(社会的活動)の意義を理解することが出来る。
14	レクリエーション体験	レクリエーションを通して、ICFにおける参加(社会的活動)の意義を理解することが出来る。
15	認知症サポーター養成講座	認知症サポーターの資格取得を通して、認知症がある方に対する基本的な知識、対応方法を理解することが出来る。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート			○	評価なし	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也		実務経験紹介	作業療法士として15年間病院で勤務。その間ICFを用い、患者の退院後の生活や生きがいを見据えた指導・訓練を実施。	

科目名	日常生活活動					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 1年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	501教室・ADL室・レク室
授業概要	リハビリテーション医学や作業療法にとって日常生活活動(以下、ADL)は重要な概念の1つである。そのADLについて概念を理解する。また、ADLに含まれる諸動作を例に取り上げて具体的な動作を観察、分析し、諸動作の構成要素を学習する。									
一般目標	ADLの概念と範囲を理解し、特に範囲については項目をすべて列挙できるようになる。ADLの代表的な評価方法を知り、それを扱うことができるようになる。									
テキスト 参考書等	15レクチャーシリーズ ADL・実習(中山書店)									

到達目標	
知識(認知領域) ・ADLの定義を説明できる。 ・ADLの範囲を説明できる。 ・ADLの代表的な評価方法を列挙できる。	
技術(精神運動領域) ・特になし	
態度(情意領域) ・授業に参加できる。 ・提出物を忘れることなく提出できる。	

回数	授業内容	授業目標
1	講義オリエンテーション ADL総論	講義の概要を理解できる。 ADLとは何か説明できる。
2	ADL、IADL、APDLについて	ADL、IADL、APDLをそれぞれ理解し、違いが説明できる。
3	ADL評価表	Barthel Indexの概要を理解できる。
4	ADL評価表	Functional Independence Measureの概要を理解できる。
5	ADL評価について	ADL評価における「質的評価」と「量的評価」について、その意味と目的を理解できる。 ADL評価における環境面の注意点について理解できる。 「しているADL」と「できるADL」の違いを理解できる。
6	ADL評価表(OT国試問題)	過去のOT国家試験問題に出現された範囲のADL評価表を知り、概要を理解できる。
7	姿勢・起居移動・床上動作	姿勢について、姿勢変換方法について等が説明できる。また、姿勢変換の手段を実践できる。
8	姿勢・起居移動・床上動作	姿勢について、姿勢変換方法について等が説明できる。また、姿勢変換の手段を実践できる。
9	姿勢・起居移動・床上動作	姿勢について、姿勢変換方法について等が説明できる。また、姿勢変換の手段を実践できる。
10	歩行動作と歩行補助具	歩行動作の基本事項を理解でき、説明できる。また、歩行補助具の違いを知り、扱うことができる。
11	移動動作(車いす移動)	車いすの基本事項を知る。また、車いすの操作方法を知り、実際に使用できる。
12	身の回り動作(食事動作、トイレ動作、更衣動作)を構成する動作を理解する	身の回り動作の構成を分析し、どのような動作が含まれているのか理解できる。
13	身の回り動作(食事動作、トイレ動作、更衣動作)を構成する動作を理解する	身の回り動作の構成を分析し、どのような動作が含まれているのか理解できる。
14	身の回り動作(整容動作、入浴動作)を構成する動作を理解する	身の回り動作の構成を分析し、どのような動作が含まれているのか理解できる。
15	身の回り動作(整容動作、入浴動作)を構成する動作を理解する	身の回り動作の構成を分析し、どのような動作が含まれているのか理解できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として、保健・医療領域での実務経験が20年以上ある。	

科目名	作業療法セミナー					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 1年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	501教室	
授業概要	本セミナーでは、過去に出題された国家試験問題をベースに作成された問題や解説文章などを活用して、作業療法士の基礎となる解剖学・生理学・運動学、その他学問への理解を深める機会とする。Moodleを使用したE-Learning、ヒントレ等の国試参考書を使用した調べ学習等を行います。									
一般目標	基礎医学(解剖学・生理学・運動学・その他)の全範囲を履修できる。									
テキスト 参考書等	PT・OT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 第2版									

到達目標		
知識(認知領域) ・基礎医学(解剖学、生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を正しく解くことができる。また、問題によっては解説できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・毎回の授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	基礎医学の学習と習熟度確認(1)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
2	基礎医学の学習と習熟度確認(2)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
3	基礎医学の学習と習熟度確認(3)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
4	基礎医学の学習と習熟度確認(4)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
5	基礎医学の学習と習熟度確認(5)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
6	基礎医学の学習と習熟度確認(6)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
7	基礎医学の学習と習熟度確認(7)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
8	基礎医学の学習と習熟度確認(8)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
9	基礎医学の学習と習熟度確認(9)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
10	基礎医学の学習と習熟度確認(10)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
11	基礎医学の学習と習熟度確認(11)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
12	基礎医学の学習と習熟度確認(12)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
13	基礎医学の学習と習熟度確認(13)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
14	基礎医学の学習と習熟度確認(14)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。
15	基礎医学の学習と習熟度確認(15)	主に基礎医学(解剖学・生理学、運動学、その他)の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	東野幸夫		実務経験紹介	作業療法士養成校での教員経験は20年以上を有し、国家試験対策に従事してきた。	